

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会に適用する規則は、2023年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会規定である。ただし、踵より前底部の靴底が厚いフィールド競技用シューズについては競技規則TR5.2を適用除外とする。

競技用靴・靴底厚さ表

種 目	靴底最大の厚さ	要 件 ・ 備 考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは40mm。
競技場内で行う競歩	40mm	

*その他詳細、WA承認靴リストについては、日本陸連ホームページを参照すること。

2. 総合開会式について

開会式では一斉行進を行うので、バックストレートに部旗を持参の上、9:25 整列完了となるように学校ごとに競技服装または学校ジャージ集合すること。(原則全員参加)

3. 招集について

(1)招集所は、メインスタンド下の雨天走路に設ける。

(2)手順

①招集開始時刻に競技者係の点呼を受ける。トラック種目出場者は、腰ナンバーを右腰のやや後方につけておくこと。招集時には、アスリートビブス(各自の登録番号)とスパイク・シューズの確認を受ける。競歩競技においては別アスリートビブスを使用することがあるが、その際は、招集時に自分のアスリートビブスを競技者係に示し、別アスリートビブスを受け取ること。

②点呼の代理は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに本人が京都府高体連陸上競技専門部HP上にある「2種目同時出場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。その場合に限り、第1種目点呼時に2種目目の点呼を同時に受けることを認める。競技については、本人がフィールド審判に申し出て、トラック競技を先に行うこと。

(3)招集完了時刻に遅れた競技者は出場する意志がないものとみなし処理する。

(4)招集完了時刻は下記の通りとする。なお、種目別の招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。

種 目	開始時刻	完了時刻
トラック	30 分前	20 分前
フィールド	50 分前	40 分前
棒高跳	90 分前	80 分前

(5) リレー種目

- ①リレー種目のオーダー用紙は、受付時に手渡しする。リレーメンバー以外から起用する場合は、必要事項を忘れずに記入すること。第1組の招集完了時刻の60分前までに競技者係（招集所）に提出すること。オーダー用紙の提出がない場合は、出場する意志がないものとみなし処理する。
 - ②出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(2)の②に準ずる。
 - ③オーダー用紙提出後の選手変更は認めない。ただし、怪我等の急なアクシデントにより、メンバーの出場ができない場合のみ、本部が指定した医務員の判断によって、変更が認められることがある。
- (6) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までにプログラム巻末、または京都府高体連陸上競技専門部HP上にある「欠場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。

4. 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

- ①トラック競技のレーン順、およびフィールド競技の試技順は、全てプログラム記載のとおりとする。準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、アスリートランキング.com及び招集所で発表する。
- ②トラック競技において、次のラウンドへの出場者を決める時は以下の方法で行う。
 - (ア) $+ \alpha$ を決めるとき、その最下位で同タイム者(1/100秒)が出た場合は、写真を拡大して1/1000秒単位で優劣の判定をする。
 - ・レーンに余裕がある場合・・・同タイム(1/1000秒単位)の選手の進出を認める。
 - ・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。
 - (イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、 $+ \alpha$ での進出者数を減らす。
 - (ウ) 800mとオープン・レーンを使用する種目
同タイム(1/1000秒単位)の選手は全員次のラウンドに進める。
- ③跳躍・投てき種目において、競技運営上やむ得ない場合は、計測ラインを設けることがある。

(2) 競技について

- ①スパイク及びシューズについては規定に適合すること。スパイクのピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投については12mm以内とする。いずれの場合も本数は11本以内とする。
- ②アスリートビブスは指定された大きさのままユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は、胸部または背部だけでよい。
- ③男子5000m、女子3000mはグループスタートで行う。
- ④トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- ⑤フィールド競技において、コーチの競技者に対する助言が競技の進行を妨げないようにするため、近接の観客席等に「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席で行うこと。
- ⑥競技区域内に携帯電話・スマートフォン・タブレット等のデバイス機器を持ち込むことはできない。また、競技区域内(招集所含む)で助力を与えたり受けたりしている競技者は、失格の対象となる。なお、フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像をコーチ席以外の場所で見ると、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げにより競技区域に持ち込むことは認めない。
- ⑦競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。
- ⑧招集所からスタート地点、跳躍場、投てき場へ行く場合、競技者係の指示に従うこと。
- ⑨競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。

(3) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。()内は公式練習の高さである。

男1年	走高跳	(135) 140 145 150 155 160 165 170 175 180 185 188 以後3cmずつ上げる (155)
男2・3年	走高跳	(140) 145 150 155 160 165 170 175 180 185 190 195 198 以後3cmずつ上げる (160)
女1年	走高跳	(110) 115 120 125 130 135 140 145 150 155 158 以後3cmずつ上げる (140)
女2・3年	走高跳	(115) 120 125 130 135 140 145 150 155 160 163 以後3cmずつ上げる (145)
男1・2・3年 棒高跳	決勝	(240) 240 260 280 290 300 310 320 330 340 350 360 370 以後10cmずつ上げる (360)
女1・2・3年 棒高跳	決勝	(180) 180 190 200 210 220 230 240 250 260 270 280 290 以後10cmずつ上げる (260)

*公式練習及び、開始するバーの高さは選手の実力に応じて、審判長判断で変更する事がある。

走高跳の優勝決定の上げ下げは、2cm単位とする。

棒高跳の優勝決定の上げ下げは、5cm単位とする。

(4) リレー競技に出場するチームは、同一ユニフォームで参加しなければならない。(形状を統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること。)

(5) 競技運営上の理由により、以下の種目において下記のタイムを超えて周回を残している場合は、フィニッシュ地点で競技を中止させる。

男子1年・女子2年・3年 3000m・男子3年 3000mSC ;12分00秒、・男子3年 5000m ;18分00秒、

男子・女子 5000m 競歩 ;36分00秒

5. 競技用具について

(1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。

(2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己のものを使用してもよい。なお、やりの検査は競技開始90分前～60分前までに100mスタート側の倉庫前で行う。以前の検査シールは剥がして持参すること。

(日本陸連の検定シールは剥がさない。)

6. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟規則により、所定の手続きをとるものとする。

7. 表彰について

学校対抗の表彰は各学年総合3位まで行う。また、各種目についても3位まで表彰を行う。記録発表後5分以内に本部席前に集合すること。また、必ず競技服装または学校ジャージで集合し、出席できない場合は代理人を立てること。

8. その他

(1) 顧問及び引率責任者(代理)の出席(審判)なき場合は、選手の出場は認めない。なお、競技役員受付を必ず通過すること。

(2) ウォーミングアップは、補助競技場(サブ・グラウンド)で行うこと。ただし、投てきの練習は、招集完了後、役

員の指示により競技場内で行うので補助競技場での投てき練習は一切行わないこと。

- (3) 円盤投、ハンマー投は補助競技場にて行う。競技中にウォーミングアップを行う場合は十分に注意を払い、競技役員の指示に従うこと。
- (4) 応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わないこと。また、集団での連呼応援は自粛すること。
(特にトラック競技のスタート直前は注意すること。) また、円滑な競技会運営のため、コーチ席並びに報道エリアを観戦や応援のためのスペースよりも優先して設置する。(コーチ以外は中での応援は行わないこと)
- (5) 更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物を置いてはならない。
- (6) 競技中に起こった怪我については、本部の医務室で応急処置のみ行う。
- (7) スタンド等で使用した場所は、各校で責任をもって清掃し、ゴミはすべて持ち帰ること。
- (8) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、必ず競技場の外側通路を使用すること。通行禁止や使用禁止の表示がある場合は、厳守すること。
- (9) 本部席前は通行を禁止する。許可された者(補助員)以外は通らないこと。また、審判長、総務、アナウンサー前での助言は競技会運営に支障を来すため行わないこと。
- (10) メインスタンドの施錠されているロイヤルボックス席並びに記者席には立ち入らないこと。
- (11) テントの設置、旗・横断幕の貼り付けは、すべてのスタンド(メイン、バック、サイド)で中段通路より上部とする。ただし、メインスタンドについてはテントの設置は禁止する。
- (12) 競技場等の入場については、各校の待機場所確保のため、一般開放をする前に各校の代表者を優先して入場させるので、早朝からの場所取りはしないこと。また、各校待機場所がトイレ前や通路、階段、バリアフリー経路の出入口等をふさぐことのないようにすること。
- (13) 公園内・サブトラックでは、メディシンボール、チューブ等の使用を禁止する。トラック上は、競技場備え付けの用具以外設置してはいけない。
- (14) 盗撮行為等を防止するために、各校に撮影許可証が配布されているので、関係者の撮影の際には必ず腕章を着けること。
- (15) 高文連写真専門部の活動の場であることも踏まえ、入場を許可する。競技場への入場の際は高文連写真専門部証の着用すること(ただし、芝生内は除く)。撮影が競技に支障がないように審判員の指示に従い、事故等を起こさないように十分に留意すること。万一、事故等が発生した場合、主催者は一切の責任を負わない。
- (16) 大会初日、雨天等のために総合開会式が中止される場合、競技時間を30分繰り上げる。(午前6:00からのNHK総合テレビニュース「天気予報6:25頃放送」において、京都府南部の午前中の降水確率が40%以上であれば、総合開会式は中止とする。)
- (17) 忘れ物等の大会中に拾得した物は10日を目途に処分するので、紛失した物等があれば期日内に要項記載の大会担当者まで問い合わせること。